

1. 学校教育目標

～清田の自然・歴史と共に～ 心豊かに たくましく生きる子どもの育成

2. 学校創造の重点

笑顔つなぐ清田っ子 『今をつなぐ 未来とつなぐ』

3. 自己評価結果に対する学校関係者評価

分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	学校関係者評価
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
学 ぶ 力 の 育 成	研究主題「自ら考え、つながる子ども」を目標とした授業づくりができていますか。 ・「学び合いのある授業作り」	A	・グループやペアによる「話し合い活動」を取り入れることで、自力解決が難しい場面でも、自分が分からないことや困ったことを仲間と共有し、解決に向かう「学び合い」の姿勢が育っています。今後も教師は子どもたちの反応や発言を適切に拾い上げたり、効果的な交流場面を設定したりして、子ども同士の学びがつながっていくように、関わっていきたくと考えています。	A	A
	落ち着いた学ぶための指導や個々の学びに応じた指導はできているか。 ・学習のやくそく ・個別指導、学びのサポーター等の有効活用 ・Chromebookの積極的な活用	A	・今年度は、担任外や学びのサポーター、時間講師、相談支援パートナーが、特別な配慮を必要とする子や日々の学習活動に困難さを感じている子のサポートを行ってきました。来年度も子ども一人一人の教育的ニーズに応じた指導内容や指導方法の工夫を柔軟に行っていきます。また、来年度も、低学年のうちからChromebookを扱う機会を設け、学習の中で効果的に活用していきけるように努めていきます。	A	A
	学ぶ意欲の向上と基礎学力の定着に向けた取組はできているか。 ・朝学習(読書・国語タイム・算数タイム) ・自ら考え取り組む「家庭学習」の充実 ・「専科指導」の充実	B	・国語や算数の基礎学力をしっかり身に付けるため朝学習の時間を活用して、漢字や計算を中心に、反復練習を行っています。 ・今後も「朝読書」や図書ボランティアさんによる低学年の「読み聞かせ」の時間を大切にし、本の楽しさを味わったり、情操教育に繋がったりしていきたいと考えます。 ・専科指導では、担任だけでなく、複数の目で子どもたちを見ることで、一人一人に対してより細やかな支援ができました。次年度も可能な範囲で専科指導を継続していきたいと考えます。	A	A
学校関係者評価 委員による意見		・情操教育の徹底を期待しています。現在の学習指導要領の中で求められている学びの姿は、個別最適な学び、協働的な学びと言われています。その点を十分に考えた改善策を講じていると思います。 ・スマホやネット接続付きテレビの普及により、小学生から悪い意味で様々な知識を付け、先生方に意見してくる場面もあり、接し方に難しさを感じることもあると思います。そんな中でも柔軟に対応されているようで素晴らしいと思います。Chromebookは大人でも使い方にばらつきがあるので、大変とは思いますが、先生方もより知識を付ける必要がありそうですね。 ・宿題を取り組めていない子どもたちや、勉強に困り感をもっている子どもたちも見つけられるため、情報の共有が必要と思っています。			
豊 か な 心 の 育 成	豊かな感性と社会性を育んでいるか。 ・考え、議論する道徳の授業	A	・相手の立場になって考えることや、挑戦する心、仲間との和を大切にすることなど、道徳の授業だけではなく、日常生活の中で、適宜、指導や支援を行い、他者とよりよく生きるための基盤となる道徳性を養っていきたくと考えています。	A	A
	命や友だを大切にしている指導はできているか。 ・いじめの未然防止の取組 ・いじめアンケートの聞き取り時間の確保、その後の指導	A	・いじめアンケートや悩み調査を実施し、その後、アンケートや調査の結果をもとに各担任が全児童から話を聞いたり、関係のある子と話し合いの時間をとったりしています。今年度より、「いじめ対策定例会議」を月に一度行い、SSW(スクールソーシャルワーカー)やSC(スクールカウンセラー)が同席し、いじめ対策委員会のメンバーが中心となって、いじめに関する情報の共有と早期の解決に迅速に対応しています。	A	A
	仲良く生活する力、進んで働く力の育成はできているか。 ・清田っ子遊びでの異学年交流 ・当番制の清掃活動で働くよさを実感 ・「幼・保・小連携」「小中一貫教育」の推進	A	・今年度も、清田幼稚園、清田保育園の園児と、本校の5年生、1年生が交流活動を行いました。また、6年生が平岡中学校、清田中学校、北野中学校を訪問し、授業や合唱の参観、部活動の見学などを実施しました。また、本校で行っている「清田っ子遊び」の異学年交流では、高学年が低学年のために遊びや集会の計画、実践をすることで、清田小を引っ張っていくという意欲を高めることができました。これらの活動は、自分の立場や責任を自覚し、成長することができる大切な機会と考えています。	A	A
学校関係者評価 委員による意見		・異学年の交流及び、他校訪問学習は成果が期待されます。 ・発表会の様子を見ると、一人一人の表情がとても良いと思いました。クラスの雰囲気、学校の雰囲気が現れていると思います。年長児と5年生の交流でも、小さな子に対してとても優しく丁寧に接してくれる姿に感動しました。 ・清田小は清田幼稚園、清田保育園が身近にあり、互いに親しみを感じやすい環境だと思います。これからも交流を続けることにより、より良い教育環境が生まれると思います。 ・いじめとまではいなくても、学校内で人間関係がうまくいっていない高学年からの相談を受けています。ぜひ、聴く時間を増やしていただきたいと思います。			

健やかな体の育成	健やかな身体の育成を図る取組はできているか。 ・運動の日常化(三間づくり 仲間・時間・空間) ・「課題探求的な学習」「運動の日常化」を目指した体育授業 ・休み時間の外遊び(集団遊び)の推奨	B	・今年度も「跳び箱週間」や「マット週間」を設け、期間中は、器械運動に重点的に取り組みました。次年度より、朝運動の時間を設け、各学年、月に2～3回、体育館で楽しく体を動かす活動を行う予定です。 ・休み時間、体育館で元気に遊ぶ児童が多いので、掃除が延びることなく昼休みの時間をしっかりと確保できるようにしていきます。また、「みんなで遊ぶと楽しい」と実感できるような学年、学級経営をしていくように努めます。子どもたちにとって、「やられる運動」ではなく、「自らやりたくなる運動」になるよう、実態を鑑み、検討しながら進めていきたいと思っています。	A	B
	学校全体で進めるなわとび運動の取組はできているか。 ・全校なわとび ・体育での準備運動	B	・毎月7と8のつく日は「全校なわとび」の日と設定しています。今年度も、休み時間に合図の音楽が鳴ると、全校児童が一斉にグラウンドに行き、15分ほど、一人跳びの練習や、クラスみんなで長縄跳びの練習をして汗を流しました。次年度も「全校なわとび」の活動は継続していきます。 ・体育の授業では準備体操に「縄跳び」を位置付け、継続させたいと考えています。	A	A
	保健・食育・道徳の授業や学級活動の時間を関連付けた健康教育の取組はできているか。 ・養護教諭、栄養教諭と教職員の連携による指導と評価の充実・発信	A	・養護教諭による「性に関する指導」や「歯の健康」などについての授業だけでなく、栄養教諭による「食指導」も複数回行いました。夜更かしをして、朝、早く起きられない子、体のだるさを訴える子などもあるので、生活リズムを整え、健康的な生活を送るためにどうしたらよいのか、保健や家庭科、学級活動の時間に指導していきます。また、生活習慣の見直しについては家庭との連携も必要だと考えています。	A	A
学校関係者評価委員による意見		・体力づくり(跳び箱、マット運動、縄跳び)など、教頭先生の力量を発揮していただきたい。また、性に関すること、健康的な生活を積極的に取り入れ、指導していただきたい。 ・幼稚園児の中にも多様な個性があり、体を動かすことよりも、お絵かきや粘土遊びを好む子も多くいます。ただ、体を動かすことの大切さを伝えるための環境構成を大事にしています。子どもたちが、体を動かしたくなる環境づくりを今後も考えていってほしいと思います。 ・運動が好き、得意な子もいれば、文化的活動を好む子もいるので、「自らやりたくなる運動」は難しいかもしれません。半強制的かもしれませんが、縄跳びはとても良いと思います。省スペースでできる全身運動ですし、文化的活動を好む子も体力向上につながります。 ・性に関する指導について、保護者にどのように伝えているか気になるところです。			
特別支援教育の推進・充実	個に応じた教育は充実しているか。 ・学びの支援体制、スクールカウンセラー、関連機関との連携	A	・一斉指導の中では、学力の定着が難しい子どもたちや、教室で一斉指導を受けることが難しい児童を中心に、担任外や学びのサポーター、時間講師・相談支援パートナーによる個別指導を続けています。学力だけでなく、友人関係や家庭のことなどで悩みをもっている児童については、学びの支援委員会では対応について話し合い、必要に応じてSC(スクールカウンセラー)に繋ぎ、連携を図ります。	A	A
	特別支援学級児童と通常学級児童の相互理解に向けた教育活動の取組は行われているか。 ・「インクルーシブ教育(交流学級)」の推進	A	・今年度も「インクルーシブ教育」として、特別支援学級の児童と通常学級の児童が触れ合い、共に活動する「交流及び共同学習」を行っています。通常学級の担任と特別支援学級の担任が入れ替わって子どもたちに指導したり、通常学級の児童が特別支援教室に行つて、一緒に給食を食べ、交流を深めたりする活動も行いました。互いを理解し、より仲を深められるよう、活動を継続していきます。	A	A
学校関係者評価委員による意見		・インクルーシブ教育を今後も積極的に取り入れてほしい。 ・ひまわり学級の学習発表会を見て、素晴らしいなと思いました。義務教育では、通常の学級と特別支援学級と学ぶ場所が変わっていますが、それだからこそ交流、及び、共同学習の推進だけでなく、より多くの場で触れ合うことができるようになるとういと思います。通常学級も支援学級も互いに交流できるインクルーシブ教育は素晴らしいと思います。私が義務教育課程では経験しなかったことです。 ・特別支援教育について保護者の方にどのように全体的に伝えるかが課題と考えます。グレーゾーンのお子さんが多く見受けられるためです。			
信頼される学校の創造	安全・安心な学校づくりの取組はできているか。 ・危機管理マニュアル・避難訓練・引取訓練・緊急保護者メール配信	A	・毎年更新している危機管理マニュアルを全職員で共有し、安全・安心な学校づくりに努めています。避難訓練や引取訓練の実施方法等についても全職員でその都度内容を確認し、より現実的なものに更新していきます。	A	A
	適切な情報の発信はできているか。 ・学年便り・HP更新・保護者メール配信	A	・保護者学校間連絡システム「すぐーる」はスムーズに運用され、欠席や遅刻などの連絡だけでなく、学校から家庭への連絡にも有効活用しています。学校HPでは、行事だけでなく、子どもたちの普段の学習の様子をできるだけ、配信するようにしています。	A	A
	校舎内外の安全点検・整備は適切に行われているか。 ・教材室、特別教室、各施設の整備・整理整頓	A	・校舎のリニューアル工事が終わりに近づいています。工事による引越し作業と並行して、特別教室の整理整頓を行いました。今後も、児童の学校生活が安全でより快適なものになるよう、各施設の整備や、学習環境整備に努めていきたいと考えています。	A	A
	信頼される学校経営・学年学級経営は行われているか。 ・4つの「あ」の取組 ・きまりや約束事のスタンダード化・ブロック毎の指導のばらつき防止 ・学校教育説明、学校評価	B	・清田小では「4つのあ〜あいさつ・ありがとう・あったかことば・あるきかた」をキーワードに、どの職員も同じ目線で共通の指導をしています。今後も指導のばらつきをなくし、「笑顔つなぐ清田っ子」の育成に努めていきたいと考えています。 ・「学校評価」は、児童アンケート、保護者アンケート、教職員アンケートの結果から「成果と課題」を洗い出し、次年度に向けてより良い清田小になるよう全職員で話し合いをしながら進めていきます。	A	A
学校関係者評価委員による意見		・今後も「4つのあ」の取組を徹底してほしい。教育活動の土台は安全安心な教育環境であります。そこを今後とも大切にしてほしいと思います。 ・すぐーるを学校評議員にも配信していただくと嬉しく思います。			